

多数の同窓生参加のもとに 創立30周年記念行事、開催さる

五月十九日(土)農学部キヤンパスにおいて、農学部創立三十周年記念式典が盛大に挙行された。

農学部の前身である兵庫農科大学が、丹波篠山の学舎で第一回新入生を迎えたのは昭和二十四年五月のことでした。爾来三十年、国立移管、六甲台移転を経て、学科・講座の整備充実が進められ、現在の農学部は、五学科二十九講座、学生定員一学年百六十名(在籍学生六百九十九名)の規模に達し、大学院修士課程を有するに至っております。

五月十九日(土)農学部キヤンパスにおいて、農学部創立三十周年記念式典が盛大に挙行された。

農学部の前身である兵庫農科大学が、丹波篠山の学舎で第一回新入生を迎えたのは昭和二十四年五月のことでした。爾来三十年、国立移管、六甲台移転を経て、学科・講座の整備充実が進められ、現在の農学部は、五学科二十九講座、学生定員一学年百六十名(在籍学生六百九十九名)の規模に達し、大学院修士課程を有するに至っております。

六甲山麓に デカンション節

宮澤秀介

初夏の晴れ上がった日射は汗ばむばかりの全くの園遊会日和であった。三十周年記念行事が関係皆様の熱心な努力により計画、実行に移されていることが知られてきた。記念行事への参加出席を申し出たものの、楽しみと反面言い知れぬ不安が、その不安と交錯し複雑な気持ちでいた。

卒業生の 真情に接す

麦林檎太郎

「二十年は須臾の間」とも言われるが、具さに追憶すると、兵庫農大創立以来の年月は、多くの変転を伴う長い時間であったと思ふ。当日、現教員各位とも「愛唱歌」で雰囲気は盛り上がり、篠山町から駆けつけたデカンション節保存会による歌と踊りで、宴は一層和やかで活気溢れるものとなりました。

記念行事

河本学部長の御挨拶、来賓各位の御祝辞の中に引用された兵庫農大初代学長三宅先生の建学の理念、これを継いだ二代目学長佐伯先生の苦心経営の成果は、神大農学部の現在の姿の中に根つき生かされているのみならず、今後とも、農学部関係者各位の精進努力によって、さらに拡大発展されるに相違なしと信じ、さきへ先生方の御霊に「この盛況を御覧下さい」とひそかに祈った。

参加して

「職事的」な交流を

岡田侃一

でかんしよ節に、丹波恋しや六甲の山に雪がちらちら越えて来る。と歌われた一節がある。これは、かつて灘の酒蔵で働いた杜氏の郷愁を歌ったものと思われるが、恰も篠山の地で学生時代を過ごした農大卒業生の郷愁に似た思いを歌っているかの様に感じられるのは、私一人だけであろうか。

爽やかな一日

伊藤 渡

五月十九日は爽やかな五月晴れで、記念行事には最高の日となった。驚く程多数の参加者があり、この行事の準備に、或は接待に大忙しである。しかし、何年かぶり、嘗て通い慣れた坂道を登ってゆくと、桜の木の下に受付があり、出席者はやはり年輩の方が多く、どの顔を拝見しても皆、立派で三十年の歴史の重みを感じられる。知らずのうちに肩に力が入る。学部長、河本先生の御挨拶があり、大祝賀パーティーが開始となる。自分分の周りは、やっとな見つけ出した数人の同級生と先輩後輩が集まっている。皆ニコニコ笑っている。乾杯、乾杯、杉の香と酒のうまさ。話も弾む。「けど少ないナア、若しもんが仕事やろ」と土曜

創立30周年記念品

- 写真集「農学部30年のあゆみ」 ¥ 2,500
《収録内容》
☆農学部・農科大学今昔; ☆年表・農学部30年; ☆古き良き兵庫農科大学(思い出深き学舎; 学生生活; 教官活動; 農大祭; おらが城下町「篠山」); ☆新しい出発神戸大学農学部(学舎; 神大生; 我が町「神戸」); ☆兵庫農科大学卒業写真集(昭和28年~昭和44年)
- 創立30周年記念「六篠会名簿」 ¥ 2,500
会則; 特別会員(教官)、正会員(卒業生)、準会員(学生)の各名簿; 人名索引付 210頁
- 絵はがき集「農学部の四季」8枚組 ¥ 300

以上3点を醸金(1口5,000円)者に郵送申し上げます。農学部学術振興基金として活用されますので、いまだ醸金されてない方は是非共御協力の程お願い致します。既にお手持ちの方も、絵はがき等追加注文をお待ちしております。なお、御送金は同封の振替用紙を御利用下さい。

振替用紙を紛失された方は、郵便局振付の振替用紙に左記の口座名・口座番号を記入の上、振込んで下さい。

口座名 神戸大学農学部六篠会
口座番号 神戸 49706

神戸大学 農 学 部

創立30周年記念ハイライト



式典受付

式 典

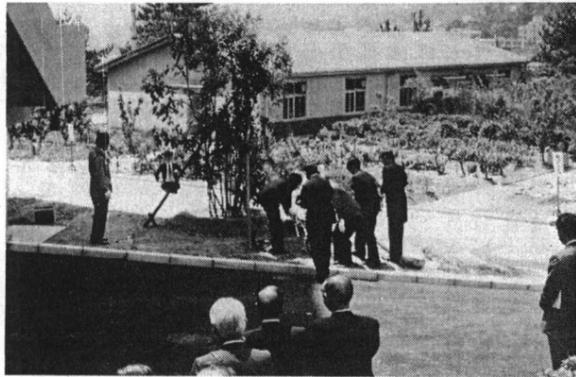


式典会場



農学部正門

記念植樹(マテバシイ)



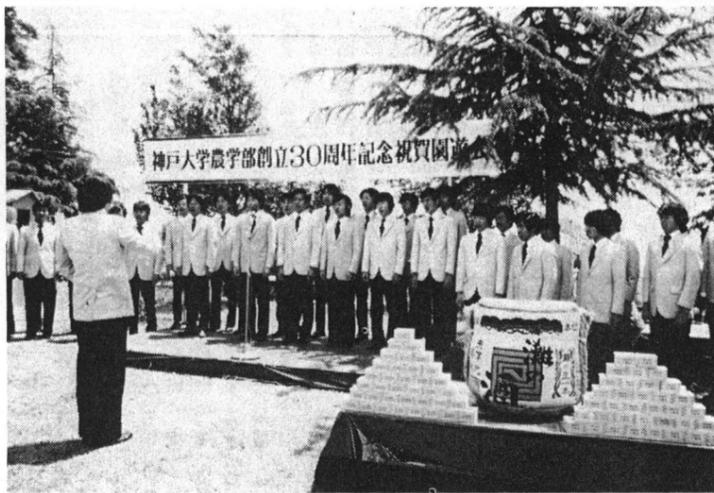
六篠会受付

園 遊 会

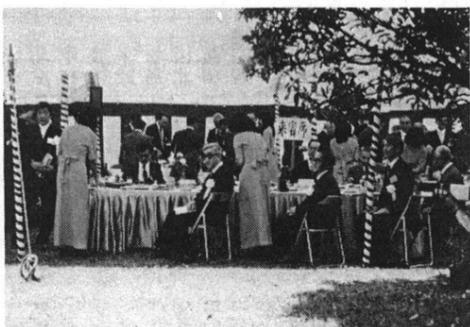


河本農学部長挨拶

学歌斉唱(神大グリークラブ)



西川六篠会長挨拶



園 遊 会 ス ナ ッ プ



六篠会名簿 住所変更及び訂正

旧職員
旧職員

園芸農学科

植物防疫学科

農業生産工学科

昭和54年12月1日

六 篠 会 名 簿 訂 正 版

農芸化学科

畜産学科

大学院農学研究科

鶴 陵 会

次の方は転居先不明につき現住所を削除

勤務先削除の方

氏名の間違っていた方（選んで訂正させていただきます）

記念事業にたずさわって

記念植樹

『マテバシイ』

前報で学部創立三十周年記念事業の一つとして記念植樹が計画され、その事業を小生が分担する事と五事業案を述べた。その後約五ヶ月間会員諸兄姉からの御提案を待ち、一九五七年卒五回生阪上安和氏と一九六六年卒十四回生岸本正氏より二案を得た。その間学部実行委員会でも学内募金限度等を検討し、植樹には費用をかけるに事なつた。費用を寄附に抑えて、半永久的に成長し続ける植樹を有意義に実行することの困難性を見越し、前記両氏に絶大な御協力を要請した。

二案を種々検討の結果、岸本氏の御提案を採り樹種をマテバシイと決定した。その第一の理由は農業との関連が深い事である。先づ強風帯農地の防風林材として西日本地域に多く植栽され、その材は推し易く強く、鎌・鋸の柄など農具の木部材に使用される。その種子は推し易く大きく食用に供される。薪炭材としても優れている。

次に現農学部キャンパスに一本もない事、第三に庭園樹にできる事、第四に入手し易い事等があげられる。マテバシイは「待てば推し易い」という意味を持ち、アスナロ同様将来への希望を表わしている。ブナ科の常緑喬木で民俗とも関係深く正月用の簀にも使われる。樹は岸本氏(株式会社社務)より六篠会が寄贈を受けた。株立十二本、樹幅二米、樹高三米、樹令十年の一株と、標識柱(三寸角一米)も寄贈を受け、場所

盛況だった園遊会

園遊会は「式典」の終了後、祝宴前に全参加者の見守る中、小生が経緯概要を報告し、兵庫農大理事長原俊民氏、事務局長・神戸市長代理松井修農政局長、京都大坂本慶一農学部部長、神戸大須田学長、河本学部長の五氏に紅白シヨベルで記念植樹をお願いした。

五月十九日当日は、式典

農学部創立30周年の記念行事のメインイベントの一つである園遊会。六篠会共催の祝賀園遊会は「式典」と「植樹」の終了後、神戸大グリークラブのオーブニングで12時20分より開かれた。会場に充てられた研究棟南庭は、約四三〇名(内訳は、六篠会関係二五三名、農学部招待者八五名、農学部職員約七〇名)の参加者で溢れた。

この会は前報で報告されたように、学部実行委員

- 会から近藤・西藤両教授が、六篠会から東・藤井の両名が協同して担当し、ここに実現の運びになったわけであるが、実行に際しては、農学部事務局との緊密な連携がもたれたのである。
- 事務局長の司会で始った会は次のように進んだ。
- 一、オープニング
 - 一、開会の辞
 - 一、挨拶
 - 一、テンプルスピーチ
 - 一、デカンショ・歌と踊り
 - 一、鏡割り
 - 一、原俊民農学部部長
 - 一、乾杯
 - 一、渡辺武彦農学部部長
 - 一、来賓祝辞
 - 一、浜田 秀雄名誉教授
 - 一、麦林樹太郎名誉教授
 - 一、合唱
 - 一、神大グリークラブ
 - 一、兵庫農大歌
 - 一、神戸学生歌
 - 一、有志

その後六篠会より学部へ寄贈し、運送・掘方・客土支柱等若干の経費を学部より支出した。一夏毎日から水し、三ヶ月余を経たようやく活著したようで緑豊く育っている。明日に向って天高く成長し続けることを祈る。(石田 陽博)

当日はこの会を祝福するような好天に恵まれて参加者は予想を若干上廻った。中には六篠会同志のカップルが自分達の子供を連れて参加している姿も見られた。雨天の場合参加者が少ない場合など前日までの心配が全くの杞憂に終わった。会場に特設された屋台やスタンドは宴半ばにして店じまいとなる盛況であった。

恩師と卒業生が渾然として久調を叙したり、紹介し合ったり、歓をつくり合っているのがあちこちに見られた。

この園遊会は兵庫農大・神戸農学部との三十周年記念の問お世話になった関係各位にお礼を申し上げるとともに今後の発展を祈念することを趣旨として開かれたものであるが、更に六篠会としてはこれを機会に今後の会員相互(兵庫農大・神戸農学部)の親睦をはかることは勿論、本会をよりどころとして先輩・後輩が協力し合って発展するための場を提供することも大きな目的の一つと考えていた。

写真集

「農学部30年の歩み」を編集して

まず最初にこの度の写真集製作に当って写真の提供等のご協力を下さいました。皆様には厚くお礼申し上げます。

この写真集は30周年記念事業の記念品3本柱の一つとして早くから計画されており、昭和53年の4月からは実務段階に入り、当初の予定では8月に編集を終わり、12月には印刷に入るようにスケジュールが組まれておりました。しかしながら、編集者の怠慢から原稿の収集が12月末までかかり、54年の正月にまでずれ込んでしまいました。一枚の写真がその時代を反映しているようです。大学は「たけれど」というプラカードを先頭に農大祭のデモンストレーション、自転車通学風景、学生教職員一体となった園遊会など神大卒業生の我々にも当時の状況を察することが出来ます。また、農大時代の卒業生には神大関係の写真が豊富であるかと思われ、年表を追って見ますと、農学部の歩みは決して平坦な道を通ってきたとは言えないことがわかります。しかしながら、現在の我が農学部は総合大学院博士課程の設置へと着実に発展しようとしており、篠山で芽ぶき、神戸で枝葉を伸ばした農学部、今まさに開花結実しようとしている時期なのだという気がして、今日この頃です。(三十尾 修司)

絵ハガキ

「農学部の四季」を発行して

六篠会報前号でお知らせした通り、原稿の撮影は本学の伊藤先生に依頼した。先生は六創美術協会々員で自他共に許すプロ級の腕前である。それだけに、苦しい会計の中から依頼するものにとっては、立派な出来上りを期待しつつも、何となく歯切れの悪いお願ひではあった。幸い先生には今回の記念事業を「理解」下さり、全くの実費、というよりは奉仕に近い形で終始ご盡力いただいたことを披露し感謝申し上げたい。例えば、農学部発祥の地、篠山の写

真は、篠山で泊りこんで被写体を十二分に検討されたものであり、また、農場の写真は上山先生を煩わして桃の花咲く頃をねらったものである。六甲キャンパスの鳥瞰図と農学部研究棟からの夜景を含めて、農学部の四季にふさわしい題材を選んでいただき八枚組となった。

次に、原稿製作者がエネルギーを注がれたのは、カラー印刷の色調であった。日本写真印刷機の技術者に何回となく注文をつけて困らせただけのことはあって、

なつかしく思い出した出席者も多かった筈である。2時30分、学部長の発声による万歳三唱、ついで東園遊会は所期の目的を達したと思うのは担当者の自賛しすぎであらうか。

終りになつたがこの会に、灘酒、つまみ、飲物、デザート等多量に寄贈して下さい。関係の方々には厚く御礼申し上げます。また当日出席した会を盛り上げて下さった会員諸兄姉に対し深く感謝する。(藤井 聡)

学部紹介 附属農場

農場長 水野 進



本学附属農場は、昭和二十四年、前身の兵庫農科大学附属農場として、篠山町郡家に3haを、続いて同二十五年初めに西紀町木之部に約1haを買収し発足しました。更に二十六年には藤岡の山林14haを買収し、教職員も十八名となり、附属農場本来の目的である学生の実習および生産体制も軌道にのりました。この草創期、初代松尾農場長を始め関係者の苦勞は大変なものであった様です。圃場整備などのおおくれで、同二十六年より農場実習が始められたことが、この間の苦勞を良く

附属古川農場および附属今田牧場が、現在の加西市羽野地区に統合され、神戸大学農学部附属農場として発足いたしました。

名により管理運営がなされ、今田牧場が、農場実習および牧場実習は、農場宿泊実習を主体として、園芸農学科、植物防疫学科、農業生産工

その間歴代農場長を始め、場員の努力により、農場生産物収入額も、昭和四十三年の四百万円から昨年度には三千万円と、順調な発展を遂げています。こうした情勢下で、農場も大きく変貌しようとして努力しています。

幸い、今年度より大学院自然科学総合研究科が発足しました。農学部のみでなく、工学部、理学部の協力、相互の交流により、天然エネルギーの有効利用を、実際化しようとする計画がこれです。本年度メタンガスの発生装置設置、更に明年度は太陽熱利用による温室設置が予定されています。近い将来、天然エネルギーの総合研究施設設立を目的とし、新しい施設も完成します。

また研究の場として役立つ様を考えています。

最後に六篠会の一層の発展と会員の皆様の御多幸をお祈りします。

附属農場本館

現農場の規模は、約40ha、うち水田9ha、畑7ha、飼料畑3ha、採草放牧地6ha、果樹園4haであり、教官6名、事務官5名、作業員23名、畜産学科の学生に実用されています。

神戸大学の附属農場として発足以来、すでに十数年が経過しようとしており、

とげてきました。然し、その昔嫌で種刈りをした時代には、予想もなかった農業情勢の変化が到来し、減反政策は今後益々強まるこ

サラワクの農村を訪ねて

農学科37年卒
農業経営学教室 保田 茂

この夏の七月下旬から八月中旬にかけての三週間、東南アジアの農村を訪ねる機会を得た。タイではチェンマイ市近くの水田農村と西北部山岳民族カヤン族の村を、フィリピンではダバオ市周辺に広がる広大なバナナプランテーションを訪ねることができた。ただし、旅行の目的はマレーシア・サラワク州で開かれた農業セミナーに参加することにあったため、旅程の半ば近くをサラワク滞在中に訪れた。ここでは、そのサラワクの様子を記すことにしたい。

サラワクはマレーシア本土から遠く離れ、ボルネオ島北部にあり、南シナ海に面してほぼ赤道直下に位置している。わが国の面積をもちながら人口はわずか百万人であり、見渡すかぎり広大な緑の原始林が横たわり、その間を太古の姿を呈した河が、茶色く濁った流れを蛇行させている。空から見れば、まるで森と河の国のような。

わが国に紹介されることの少ない地域だが、すでに経済的には密接な関係にあり、石油や天然ガスなどのエネルギー資源のほか、木材・ゴム・コシヨウ・ヤシ油・ココナツ及び冷凍エビなどの農水産物も多量に日本に輸入されている。一方、サラワクの中心をなす市クラン市やシブリー市には日本製の自動車やオートバイが道路に溢れ、化学調味料やハミガキに至るまで様々な日本製品が森の奥深くの村まで普及している。わが国が輸出で莫大な外貨を獲得している様を感ずることが出来る。

だが、こうした商品の氾濫は、東南アジア諸国に共通して、日本と現地の人との間に大きな摩擦を生んでいる。



いる。今夏、サラワクで農業セミナーをもつたのも、過去の訪問を通してもっと相互の交流を深める必要を感じたからにはかならない。

農業セミナーの主要なテーマは「日本農業の発展過程」、「サラワク農業の現状と改善策」、「消費者運動のすすめ方」などであったが、農家の人達の間では、とりわけ、水稲や陸稲の生産力向上と除草作業などの省力化に強い関心があった。そのほか、灌漑排水施設の整備

られている。乾期の五月頃から木を切り倒し、七、八月にかけて山を焼きそのあとに種を播くのである。しかし、若者は次第に農業を嫌い、そのために焼畑地は便利どころが優先され、十分に地味が回復しないままに次の稲つくりが行われていくようである。したがって土壌流亡がすすみ、地方が低下して少ない収穫量をますます低からしめている。

のかして、より多くの米を穫りたいというのが農家の切実な願いであり、あわせて、日まにすすむ貨幣経済の中で、新たな商品作物の導入が求められている。指導機関の様々な指導もあるといえ、広大な土地に散在する農村をこまめに指導していくことは並大抵のことではない。そのため費用と人材の確保はサラワクにとって決して容易なことではなさそうである。

サラワクの農村の事情に触れ、ば触れるほど、何か我々に協力できることがあるのではないかと痛感するのがある。わが農学部の後進の充実に一つに国際交流の充実があげられている。許すだけでいい、サラワクの現地の可能性もある。サラワク農業の研究を手がかりとして、新たな農学部の課題に着手することができればと期待する昨今である。

庶務報告

役員会報告

本年度は創立30周年記念事業を成就させるために、臨時役員会、定期役員会および学内役員会と例年になく多くの会合をもち、六篠会役員は勿論のこと、学内同窓生の皆さんに貴重な時間と労力を提供していただいた。紙面の都合でそれらの要旨のみを報告したい。

昭和54年2月10日
定期役員会 於農学部
昭和53年度経過ならびに会計報告
昭和54年度役員選出
創立30周年記念事業
昭和54年5月10日
学内六篠会 於農学部
学内遊会当日の分担等の依頼について
昭和54年6月25日
臨時拡大役員会 於金龍閣
創立30周年記念事業経過ならびに会計報告
昭和54年度事業計画
○「神大会館(仮称)」の設立計画について

農学部研究棟増築

本年春、農学部学舎のうち南に面した研究棟(E棟)の西側に六階建てのF棟が竣工しました。大学院農学研究科の設置などで窮乏な思いをいたしました。大分緩和されました。

訃報

佐伯秀章先生(神大名養教授・土壌学)は去る四月十九日急性肺炎のため、京都市西京区大原野上里鳥見町二一の自宅で逝去されました。享年七十四歳でした。

先生は兵庫農科大学長、神大農学部長を歴任、農学部の発展に尽力されました。平林成志先生(元農薬学教授)は去る九月十一日クモ膜下出血のため逝去され、松本市笹原区中二子三三の自宅で葬儀が行われました。享年七十五歳でした。

こゝに謹んで両先生の御冥福をお祈りいたします。

住所変更は御連絡を!!

本年5月創立30周年記念の六篠会名簿を発行いたしました。記入洩れ、誤植、その後の住所、勤務先の変更について、すでに御連絡いただいた分については本紙折り込みで訂正いたしております。今後、会員の皆様で訂正を必要とされる場合は下記の要領で係までお知らせ下さい。

記載事項 会員番号、卒業年次、学科、氏名、現住所、勤務先、電話等の変更事項。
送り先 神戸市灘区六甲台町1 神戸大学農学部内
六篠会名簿係 山本 博昭 宛
※ 変更通知は、六篠会名簿の末尾に添付された私製葉書を御利用下さると便利です。

会 計 報 告

昭和53年度一般会計決算報告書

収支対照表

前年度繰越金	110,407	本年度支出金	852,875
本年度入金計	779,236	次年度へ繰越計	36,768
合	889,643	合	889,643

収入の部

前年度繰越金	110,407	110,407	
前年度入金	1,028,000	706,000	5000円×120人
金 利	5,000	9,236	2000円×53人
雑 収	6,000	64,000	広告10件
計	1,149,407	889,643	名簿2冊

支出の部

教育研究援助費	100,000	100,000	
農学部活動援助費	100,000	100,000	
一般事業費	100,000	0	
一般事務費	450,000	427,325	会報発行など
一般事務費	30,000	8,350	役員会2回、学内役員会1回
一般事務費	100,000	88,360	アルバイト料、事務室へ
一般事務費	20,000	22,000	学外役員、役員会出席
一般事務費	15,000	6,840	4件
一般事務費	10,000	0	
一般事務費	24,407	0	
特別会計へ繰入れ	200,000	100,000	
合	1,149,407	852,875	

昭和54年4月30日 監査の結果誤りなきことを認めます
浦 岡 睦 山 本 博 昭

昭和53年度特別会計決算報告書(六篠会学術振興基金準備金)

前年度繰越金	2,630,502	2,630,502
一般会計より繰入れ	200,000	100,000
預 金	136,600	143,470
合	2,967,102	2,873,972

昭和54年4月30日 監査の結果誤りなきことを認めます
浦 岡 睦 山 本 博 昭

昭和54年度一般会計予算

収入の部

前年度繰越金	36,768	
前年度入金	1,100,000	新入生10,000×110名
金 利	3,000	
雑 収	2,000	
計	1,141,768	

支出の部

教育研究援助費	100,000	
農学部活動援助費	100,000	
一般事業費	230,000	
一般事務費	500,000	名簿事務の委託、記念出版物購入その他
一般事務費	50,000	会報ほか、印刷費、郵送費
一般事務費	80,000	アルバイト料、その他
一般事務費	30,000	学外役員の役員会出席、その他
一般事務費	15,000	
一般事務費	10,000	
一般事務費	6,768	
特別会計へ繰入れ	20,000	
合	1,141,768	

昭和54年度特別会計予算(六篠会学術振興基金準備金)

前年度繰越金	2,873,972	
一般会計より繰入れ	20,000	
預 金	122,000	
合	3,015,972	

創立30周年記念事業会計中間報告(54・10・12現在)

収入の部

募 金	10,000,000	6,405,000	募金者数1076名
金 利	0	14,335	
雑 収	0	43,585	記念出版物売却
計	10,000,000	6,462,920	32,300他

支出の部

学 術 振 興 基 金 費	5,000,000	1,055,000	名簿 1,300,000
学 術 振 興 基 金 費	4,000,000	4,517,590	写真集 1,700,000
学 術 振 興 基 金 費	400,000	370,890	絵はがき 950,000 他
学 術 振 興 基 金 費	100,000	16,000	
学 術 振 興 基 金 費	100,000	72,155	弁当
学 術 振 興 基 金 費	100,000	58,690	振替手数料 42,530 他
学 術 振 興 基 金 費	50,000	0	
学 術 振 興 基 金 費	250,000	0	最終的には学術振興基金にて
学 術 振 興 基 金 費	10,000,000	372,595	
学 術 振 興 基 金 費	10,000,000	6,462,920	

編 集 後 記

今回お届けする会報「第3号」は成功裡に終了しました。創立30周年記念事業の報告とともに現在話が進められている「神大会館」や「大学院」問題を中心に編集しました。ごに、御寄稿いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

会報には六篠会や学部でとり組んでいる課題の紹介や事業の報告のほかに会員相互の意見や情報の交換の場としての役割もあろうかと思っております。

さらに紙面を充実させるために御意見や近況など御投稿をお待ちしております。

同窓諸氏の間で大学時代の学年やクラブを通じて、また、それぞれの地域や職場で定期的な会合をお持ちでしたら会報係まで御連絡下さい。

卒業していく人にとって心強いもの、そして、コミュニケーションの輪を広げていくために紹介していきたいと思っております。年々、お押しさせていただきます。皆様の御多幸をお祈りいたします。